

令和6年度評価

輪之内町教育委員会の権限に属する
事務の管理及び執行の状況報告書

令和7年4月

輪之内町教育委員会

目 次

第1章 点検評価結果の概要

1. はじめに	1
2. 点検評価の実施について	1
(1) 「学校教育」の執行状況について	1
(2) 「社会教育」の執行状況について	1
3. 点検評価結果全体の概要	2

第2章 各事務事業ごとの点検評価シート

1. 教育委員会の活動の状況	3
2. 事務事業の執行状況	3～4

第1章 点検評価結果の概要

1. はじめに

輪之内町教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和6年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告をここにまとめました。

2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による視察等の調査活動と教育委員会が令和6年度に実施した事務事業の中から主要な21領域について、実績や成果と課題を記述し、次に示す5区分で達成度を評価しました。

<評価について>

点検評価においては、次の5区分により達成度の評価を行いました。

評 定	内 容	容
A	順調に達成しているもの	80%以上
B	おおむね順調に達成しているもの	50%以上 80%未満
C	達成見込みであるが順調でないもの	20%以上 50%未満
D	順調でないもの	20%未満
—	評価不能	事業未実施

(1)「学校教育」の執行状況について

学校教育について、評定と数値で評価することとしました。

町内小中学校に勤務する教職員の自校評価を点数化して、町内の学校の平均値を求めました。比較するために過去のデータをもとに点数化しました。

評定だけでは分からない細やかな変化から、次年度への課題は明確にできるようにしました。

(2)「社会教育」の執行状況について

社会教育について、評定で評価することとしました。

各担当者が参加者の感想やアンケート、自己評価などで総合的に行いました。

3. 点検評価結果全体の概要

◇ 教育委員会の活動状況

- ① 教育委員会会議の状況・・・・・・・・・・順調に達成している（A）
- ② 調査活動の状況・・・・・・・・・・順調に達成している（A）

◇ 事務事業の執行状況

A 順調に達成しているもの・・・・・・・・・・	9/21 事業（43 %）
B おおむね順調に達成しているもの・・・・・・・・	12/21 事業（57 %）
C 達成見込みであるが順調でないもの・・・・・・・・	0/21 事業（0 %）
D 順調でないもの・・・・・・・・・・・・・・・・	0/21 事業（0 %）
－ 評価不能・・・・・・・・・・・・・・・・	0/21 事業（0 %）

第2章 各事務事業ごとの点検評価シート

1. 教育委員会の活動状況

別紙「点検評価シート」のとおり

2. 事務事業の執行状況について

別紙「点検評価シート」のとおり

教育委員会の活動状況

点検項目	実績	成果と課題	R6評価	R5評価	R4評価
教育委員会会議等の実施状況	<p>【定例・臨時教育委員会】 開催回数: 定例会議 12 回 臨時会議 1 回 審議件数: 専決報告 2 件 議案 28 件 内可決 28 件 【総合教育会議】 2 回 【町教委学校訪問】 4校実施</p>	<p>【成果】 ・事務局提案に対し、委員からの協議事項の発議等、活発な意見交換が行われた。28件の議案を可決することができた。 ・輪之内町教育委員会訪問の参観等を通して、それぞれの学校の取組のよさを中心に指導することができた。 ・教科書採択では、各教科書の特徴の違いを指摘し、よりよい教科書を選択することができた。</p> <p>【課題】 ・昨年度同様、令和6年度の委員会の傍聴者が皆無であった。</p>	A	A	A
調査活動の状況等	<p>・全国町村教育長定期総会 (5月14日・15日) ・西濃地区教委連絡協議会総会・教育委員研修会 (6月27日) ・教育長及び教育長職務代理視察研修会 (10月11日) ・岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会 (町研のため欠席) ・町研究発表会 (仁木小学校 10月29日) ・郡教育委員研修視察 (11月21日)</p>	<p>【成果】 ・教育委員研修視察では、上石津学園を訪問し、義務教育学校について理解を深めることができた。</p> <p>【課題】 ・岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会は、町研と重なり、参加できず残念であった。</p>	A	A	A

学校教育

◆各領域の評価は、町内教職員の評価を総合的に判断している。

領域	重点目標	成果と課題	R6評価	R5評価	R4評価
学校経営	全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	○学級での困りごとがあると、色々な先生が相談に乗ってくださるため、一人で抱えることなく安心して働くことができている。	A	A	A
		○毎月ストレスチェックや資質向上について考える機会があり、働き方を見直すことができた。 ▲不祥事・ハラスメント根絶に向けた取組、研修が自分事となるよう、学校全体の取組として推進していく。	82.6	85.7	84.1
研修	自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	○時間がまとまって取れる時期と、打合せ等の時間活用とで、メリハリをつけながら、職員の困り感や必要間に対応した研修を位置付けることができた。	B	A	A
		▲図工や音楽の指導法など実践的な内容を、夏休みの職員研修で学べるよとい。	78.4	81.0	80.0
教科指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	○自分の考えとの共通点や相違点を相手に伝えるなど、教科やねらいに合わせて考えを深めていく観点を与えるなどの授業改善を行った。	B	A	B
		○目的を明確にした交流を位置づけ、仲間から学ぶ学習を大切にすることができた。 ▲多くの学級が単学級のため、学年部を利用するなど、授業力向上の方法を検討していく。	79.1	84.8	73.4
道徳教育	自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	○児童の発言に対し「行為の裏側にある心情」を引き出す指導が広がってきた。	B	A	B
		○一人ひとりが教材に対して自分の考えをもち、実生活に立ち返って自己を見つめ直すことができた。 ▲お互いの授業を見合い、授業改善につなげていく必要がある。	76.6	82.1	75.0
外国語活動	外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	○ALTや専科の先生方が、児童の興味を引くような準備をしてくださるおかげで、児童は非常に楽しく英語を学んでいた。	B	A	B
		○分からない単語はGoogleで調べ、進んで表現しようとする児童が増えた。 ▲英語は、児童の関心の度合いに差がある、関心の低い児童に対するさらなる手立てを考えていきたい。	76.6	84.0	78.6
総合的な学習の時間の指導 (ふるさと教育・防災教育)	探究的な学習を通じて、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	○出前講座や施設訪問など、地域と連携して、多くの活動を仕組み、輪之内の良さを実感することができた。	B	A	B
		○防災教育を通して、段ボールベットや簡易トイレの組み立て方を学ぶことができた。 ▲今後も発達段階に応じて、発信型(町への提言)の出口にしていく。	76.6	80.8	76.3
特別活動	所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	○児童が自治的に活動できるよう、まず、自分で考え判断し自己決定する場を意図的に位置づけたことで、工夫しようとする児童が増えた。	B	A	B
		▲自己有用感を高めるために、職員が児童生徒の行動の何が素晴らしいのか、具体的に価値付けたり意味付けたりしていく。	75.7	85.6	77.4
生徒指導	共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	○すべての学校で「SOSの出し方」授業を実施し、不安なことや困り感が生まれやすくなった時の対応や心の在り方について考えることができた。	A	A	A
		○生徒指導事案があった時、すぐに相談したり報告したりできる環境がある。 ▲発達障害のある生徒に対する専門家による効果的な指導をしてもらう場があるとありがたい。	85.1	89.2	82.8
キャリア教育	社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	○活動前に願いをもつこと、それに向けて取り組む活動中の子どもたちの姿を見届け価値付け、振り返ることで、自分やりきったという自立感・充実感を育てていけるよう指導することができた。	B	B	B
		▲職員がキャリア教育の具体を理解したい。キャリア=職業ではなく、発達段階に応じた係活動、委員会活動で人の役に立つ経験をより多く経験させていく。	77.1	75.3	70.1

健康安全	健康安全	運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を育てる。	○休み時間の運動について、委員会を中心に、児童主体で取り組む体制ができています。	A	A	A
			○朝活動など学級の時間に安全な生活を送るための動画の活用し、ヘルメット、廊下歩行等の大切さについて指導した。 ▲防災についての正しい知識を教え、自分一人でも自分の命を守るための行動がとれるように指導していく。	80.9	85.9	82.3
コミュニティ・スクール	地域と一体となって特色ある学校づくりを進める。		○家庭科等の学習支援ボランティア、読み聞かせ、懸崖菊や田植え、稲刈りなどで、地域の方と連携し共に学ぶ機会があり活動が充実した。	A	-	-
			○外から見る学校の様子、運営協議会での授業参観を通して、感じたこと等、継続して教えていただけ大変ありがたい。 ▲今後も必要に応じて、学校支援ボランティアを募集も行っていきたい。	81.3	-	-
特別支援	一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。		○児童の実態に合わせて、支援を行うことができた。また、個の困り感を本人や保護者と相談しながら進めることができた。	B	A	B
			○ケース会議や通級での学習記録を活用し、児童理解を深め、指導支援につなげた。 ▲通常学級にも支援を要する児童生徒は増加傾向である。支援のあり方について、研修する場があるとよい。	75.2	85.2	78.0
人権	自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。		○子ども自身が仲間の少しの成長も見逃さず、互いに認めて、言葉で伝えられるようになってきた。	A	A	A
			○迅速な初期対応を心がけ、いじめや差別に繋がりそうだと感じることは「このくらいなら、」と思わず、毅然とした態度で対応にあたり、その後の見届けてを行った。 ▲普段の生活で、ダメなことはダメだと互いに声を掛け合える環境を学校全体で作っていく。	83.4	86.4	81.7
ICT教育・図書館	教育の情報化を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を育成する。		○以前に比べ、効果的に活用できる職員が増えた。体育の授業での「おっかけ再生機能」や総合等の発表場面での「プレゼン作成」等、児童が自ら情報を活用して学習に取り組むことができた。	B	A	A
			▲家庭での活用がやや弱い。「ウェブラーニング」「ドリルパーク」等を土日に主体的に活用できるように声かけをしていく。	77.3	81.0	80.4

社会教育

領域	重点目標	成果と課題	R6評価	R5評価	R4評価
家庭教育	家庭教育に関する学習機会の提供。 子育ての支援と教育環境の整備。 地域づくり会議やPTA等の連携。	○各園各校とも在宅型取組が行われた。こども園は、年間を通じて「おやくそく」を各家庭で取り組んだ。小中学校は、長期休暇中に、親子レシポ・お手伝い等を実施したり、ネットモラル問題に関して新聞記事やインターネットで調べ、親子で話し合う活動を実施した。参加率はほぼ100%であった。 ○町主催の合同家庭教育学級は、外部講師による講演型を実施し、学び合うことができた。	A	A	B
地域教育	子どもたちの社会参加・地域活動の促進。	○区長会に依頼をし、中学生が地域の活動に計画段階から参画し、自治体の支援を受けながら役に立ったという自己肯定感を味わうことができた。 ○地域づくりに関わる取組を再開することができた。 ▲PTAを含め、大人が地域の行事の参加に消極的であった。	A	A	B
生涯学習環境	家庭、学校、地域社会が連携し、社会全体で子どもたちをはぐくむ地域づくり活動の推進。	○高齢者教室「みつば学級」を開設し、教養・健康・軽スポーツなど、その時々に即した分野の講座を年間をとおして実施し、高齢者の生涯学習に取り組んだ。(全10回、合計123名参加) ○小学生対象の総合的な体験学習講座である「わのうち未来塾」を35名で実施した。全10回講座、第5回のみ40名追加して、日帰り体験学習を実施した。 ○校区地域づくり会議を発展的解消し、各小学校の地域学校協働活動に組み込んだ。	A	B	B
生涯学習体制・指導者	地域における主体的な社会教育活動を支援する取組の推進。	○小学生に対して、輪之内町の歴史を学んだり化学実験を行ったりする講座等を設け、興味関心に応じて学ぶことができる機会を設定した。 ▲子どもたちが主体となって、持続可能な活動となるよう、やり方を工夫して意図的に仕組んでいく。	B	B	B
芸術文化の振興	文化芸術活動の振興。 子どもの文化芸術体験の充実。	○町文化祭は、ふれあいフェスタと同時開催したが、悪天候の影響もあり、入場者数が減少した。文化協会の紹介により、より質の高い音楽に触れることができた。 ○子ども対象の出前講座や「わのうち未来塾」の内容が充実していた。 ▲役員負担を考慮し、どのように継続していくか、検討していく。	B	A	B
伝統文化と郷土の歴史の保護継承	文化財や伝統芸能の保存・伝承・活用への支援。	○小学生に対して文化財の理解をすすめるため、文化財保護審議委員会で冊子「輪之内町の文化財」の小学生版の作成に継続して取り組んだ。 ○伝統文化財継承(6団体)は、6団体とも実施することができた。	A	A	B
スポーツ推進体制	スポーツ環境の諸整備(スポーツ推進体制の充実と施設の整備)	○施設の予約システム導入の準備を行い、希望日の重複が発生した場合、平等に貸し出しできるようにした。 ▲町民運動会の開催において、統一の対応ができなかった。	B	B	-
	生涯スポーツの振興(県民1スポーツ運動)	○スポーツクラブが運営する体験型のスポーツ、レクリエーションイベント(わのうちスポーツ・レクリエーション)を計画的に準備することができた。 ▲直接の町組織ではないが、クラブ運営の安定化に向け、人材確保が急務である。			
	「県民1スポーツ運動」具現のための指導者育成	○スポーツ推進委員やレクリエーション協会の有識者が、講習会等で助言する機会があり、資質向上を図ることができた。			